



現在位置: [トップページ](#) [安心・安全情報](#) [Web「京都消防」](#) [Web京都消防平成28年11月号](#) 平成28年11月号 人事課通信

平成28年11月号 人事課通信

ページ番号206766

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

ツイート

シェア

2016年10月27日



前回の「人事課通信」では、女性消防吏員の職域拡大についてお話をさせていただきました。今回は、女性消防吏員の仕事を紹介した動画について御紹介します。映画の予告編のように、実際の動画もより気軽に、より楽しんでいただけたら嬉しいです。

(※女性消防吏員の職域拡大については、[「Web京都消防」平成28年7月号「人事課通信」](#)を御覧ください。)

京都市では、平成24年度から大学と共同で動画を制作する事業を実施しています。様々な部署と映像などのメディアを学ぶ学生さんとがコラボレーションして動画を作成、YouTubeの京都市公式チャンネル「きょうと動画情報館」や、ホームページ等に掲載し、広く市の事業や取組について知っていただく、というものです。

消防局もこの事業に参画し、動画を作成してきました。今年度の消防局の動画制作テーマは、「消防局で活躍する女性消防吏員」。動画を制作する同志社女子大学情報メディア学科の皆さんには、訓練の見学や取材、脚本の作成から現地撮影、編集と、6月から現在まで、何度も打ち合わせを繰り返しながら制作いただいているところです。

素敵な動画ができそうなのに、完成までお知らせできないのはもったいない！ということで、取材風景と合わせて、内容を少し御紹介します。

「ファイヤーウーマン」と題されたこの作品は、女性消防吏員の活躍をテーマに、仕事の内容や消防という仕事の魅力について、女性目線で映像化されています。

今回登場するのは、4人の異なる業務を担当する女性消防吏員です。

119番通報を受け付け、部隊に出動を指令する消防指令センター員。その指令を受けて出動する消防隊員と救急隊員。そして、火災を未然に防ぐため、また、発生した場合に被害を最小限に抑えるため、予防業務に当たる予防課員。

動画では、消防隊員を中心とした構成となっているのですが、その他の業務についてもより分かりやすく伝えられるよう、熱心な取材が実施されました。学生さんたちの妥協のない取材に、最初は緊張していた被写体の女性消防吏員も、ありのままの仕事ぶりを見せてくれたように思います。



【119番の受信シーンを撮影中】



【救急隊員のコメント撮影中】



【消防隊員の訓練風景を消防車内部から】



【予防課受付にて、撮影リハーサル中】

この動画を通じて、少しでも女性消防吏員を身近に感じていただけたら、そして女性の将来の職業選択の幅を少しでも広げることにつながればと願っています。

また、現在、総務省消防庁主催の女子学生向け職業体験イベントが全国8都市で順次、開催されています。近畿地方では12月に京都で開催されることとなっており、京都市消防局もブースを出展予定です。動画を御覧いただき、少しでも興味を持った方がいらしたら、是非、女性消防吏員の仕事について、直接見て、知っていただければと思います。余談ですが、実はこのイベントで流れる消防庁作成の女性消防吏員の職業紹介の映像にも、また別の京都市消防局の女性消防吏員が出演しています。以下のポータルサイトにも順次掲載される予定ですので、見比べていただくと面白いかもしれません。

(総務省消防庁主催の女子学生向け職業体験イベント「1dayインターンシップ」等については、こちらを御確認ください。)→
[【総務省消防庁「女性消防吏員の活躍推進のためのポータルサイト」】](#) [外部リンク](#)

今回御紹介した動画については、[きょうと動画情報館](#)及び[京都市消防局ホームページ](#)において、11月下旬～12月頃公開予定です。乞う御期待！！

平成28年
11月号目次

お問い合わせ先

京都市 消防局消防学校教養課
 電話:075-682-0119
 ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

[北区](#) [上京区](#) [左京区](#) [中京区](#) [東山区](#) [山科区](#) [下京区](#) [南区](#) [右京区](#) [西京区](#) [伏見区](#)

閉じる

現在位置: [トップページ](#) [安心・安全情報](#) [Web「京都消防」](#) [Web京都消防平成28年11月号](#)
平成28年11月号 予防タイムズ・リターンズ

平成28年11月号 予防タイムズ・リターンズ

ページ番号206771

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます



2016年10月27日



◆ はじめに

先輩: ここで隊列が組み終わるので、このタイミングで・・・「絶対させない～なくそう放火～!」。よし、決まったな。

後輩: 先輩、なにをブツブツ言っているんですか？

先輩: 11月11日の放火火災予防デーでうちの消防署でやるパレードの進行を確認しているんだよ。いよいよ近付いてきたな。

後輩: そうですね、ここ数日ずっと「あーでもない」、「こーでもない」って悩まれてましたものね。

先輩: 今年が初めての取組だからな。祭好きの血が騒いで気持ちがすごく盛り上がってきてるよ。

後輩: 先輩、お祭り大好きですもんね。今回のパレードはどんな計画なんですか？

先輩: うちの消防署から〇〇通を進んで、△△駅の前で街頭広報をする予定なんだ。

後輩: パレードには消防団の方も参加されるんですね。これは本当にお祭りのように盛り上がりますね。

先輩: そうだな。今回の取組は、市内全行政区に、放火防止をPRする横断幕をタスキ替わりにリレー形式でつないでいくものなんだ。中京区で実施する「放火火災予防デーキックオフイベント」を発端に、市内行政区の北エリア、南東エリア、西エリア3つのルートを順番にリレーする予定なんだ。市内全ての行政区で放火防止を啓発する取組を行うことになるんだよ。

後輩: 全市一斉に行動するんですね。

先輩: そうだ。放火火災の予防を啓発する全市一斉行動日と言えるな。

後輩: でも何故、11月11日に実施するんですか？



◆ 放火火災予防デーの制定

先輩: 去年(平成27年),京都市火災予防条例の改正で,「放火火災の予防に関すること」が新たに規定されたことは知っているな?

後輩: はい。従前の放火防止五箇条の内容が条例に盛り込まれたものですね。

先輩: そうだ。その条例改正では,市民が放火防止のために主体的に取り組むことや,市民,地域,事業所及び関係機関が一体となって放火防止に取り組むことを明確にしたんだ。その改正火災予防条例が公布・施行された11月11日を,放火火災予防の大切さを市民にアピールし,また全ての市民に放火防止の取組を促すための日として制定されたのが,放火火災予防デーなんだ。

後輩: なるほどー。そういえば,11月11日は秋の火災予防運動期間中ですね。

先輩: そうだ。秋の火災予防運動は,11月9日から15日までの間に実施するから,その期間の中で放火火災予防デーは放火防止啓発に重点を置く特別な日,ということになるな。

◆ 今年の放火防止の取組

後輩: なるほど。そういえば今年は新たな放火防止の取組が目白押しですよ。

先輩: そうなんだ。この放火火災の予防に関する改正条例は,「市民の方が主体的に放火防止に取り組むこと」に主眼を置いているんだ。そこで,消防職員,消防団員,地域住民及び関係機関が一体となった地域の取組,「放火対策プロジェクト」を平成28年度消防局運営方針の重点取組の一つに掲げて立ち上げ,推進することとしたんだ。具体的に何をやるかは分かるかな?

後輩: えーっと,3つのステップがあるんですよ。

一つが「放火対策エリアの選定」,次に「放火対策コンサルタントの養成」,最後に「放火対策アクションの実践」ですね。

先輩: よく勉強しているな。

第1ステップの「放火対策エリアの選定」は,主に過去5年間に放火事案が3件以上発生した学区から選定するもので,今年は7月末までに各消防署・分署ごとに3学区,市内全域で合計36学区を選定しているんだ。

第2ステップの「放火対策コンサルタントの養成」は,選定された放火対策エリアを管轄する消防団員や自主防災会の方を,地域における放火対策の相談役である放火対策コンサルタントとして養成するもので,9月に京都市消防学校で養成研修を実施したんだ。

最後第3ステップの「放火対策アクションの実践」は,放火対策エリアにおいて,放火対策コンサルタントを交えた話し合いや見回り活動を実施して,放火防止に関する地域の取組事項を決定し,実践するというもので,10月から実施しているところなんだ。

◆ 放火対策プロジェクトの概要

実施手順	取 組 内 容
①放火対策 エリアの選定	<ul style="list-style-type: none"> 過去5年間で放火事案が3件以上発生している学区(96学区) その他,署長が特に取組が必要と認める地域 ⇒ 平成28年度は,上記地域から各署(分署)ごとに3学区を選定。
②放火対策 コンサルタントの養成	<ul style="list-style-type: none"> 放火対策エリアを管轄する消防団員等を対象として養成(3時間の講習を予定)
③放火対策 アクションの実践	<ul style="list-style-type: none"> 放火対策エリアにおいて,放火対策コンサルタントを交えたミーティングや防火見回り活動を実施し,地域の実践事項を決定し,実践する。

後輩: なるほど。他にも放火防止特別警戒も実施していますね。

先輩: そうだな。各消防署・分署の消防隊や救助隊が、毎月2回、放火火災が多く発生する深夜時間帯に放火防止の巡回パトロールを実施しているんだ。まさに市民と消防が共に汗をかいて放火火災をなくす取組を実施しているんだ。

◆ 終わりに

後輩: 今年取組は放火火災をなくすという意気込みが感じられますね。そういえば、放火火災は40年連続して京都市の火災原因の第1位ですよ。

◆ 平成8年以降の放火件数推移



先輩: そうだ。放火火災を減少させることができれば、市内の火災を減少させることにもつながるからな。今回の様々な取組が市民一人一人に浸透したとき、市内から放火火災がなくなり、火災が少ない安心安全なまち京都になっていくんだらうな。

後輩: そう考えると、放火火災予防デーの取組で、一人でも多くの市民に放火火災予防の大切さを伝えることができれば良いですね。

先輩: そうだな。だからこそ今回のパレードは入念に事前準備をしているわけだ。

そういえば屋から査察に行く事業所へのルートは、今回のパレードのコースを通るな。当日のシミュレーションと体力錬成を兼ねて、歩いて行こうか。

後輩: ……山の上にある事業所なんですけど。



お問い合わせ先

京都市 消防局消防学校教養課
 電話:075-682-0119
 ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

- [北区](#)
- [上京区](#)
- [左京区](#)
- [中京区](#)
- [東山区](#)
- [山科区](#)
- [下京区](#)
- [南区](#)
- [右京区](#)
- [西京区](#)
- [伏見区](#)



平成28年11月号 消防活動への扉

ページ番号206765

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

ツイート

シェア

2016年10月27日

消防活動へのとびら

崩落監視システムについて

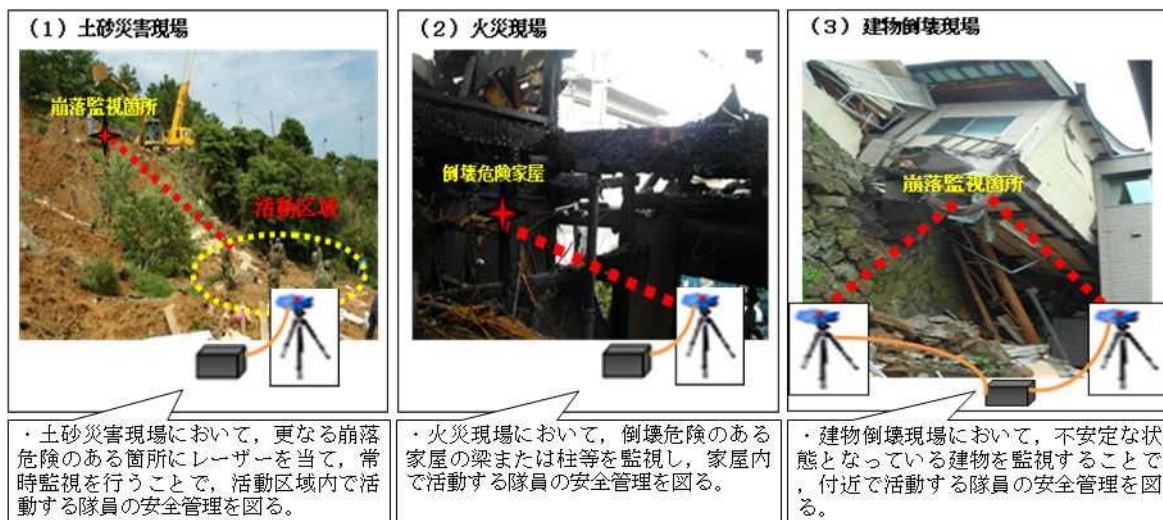
消防救助課 (本部救助隊)

今回は、平成28年6月に本部指揮救助隊に配備された崩落監視システム(YONE株式会社 Leader Sentry MIHARI)について紹介します。

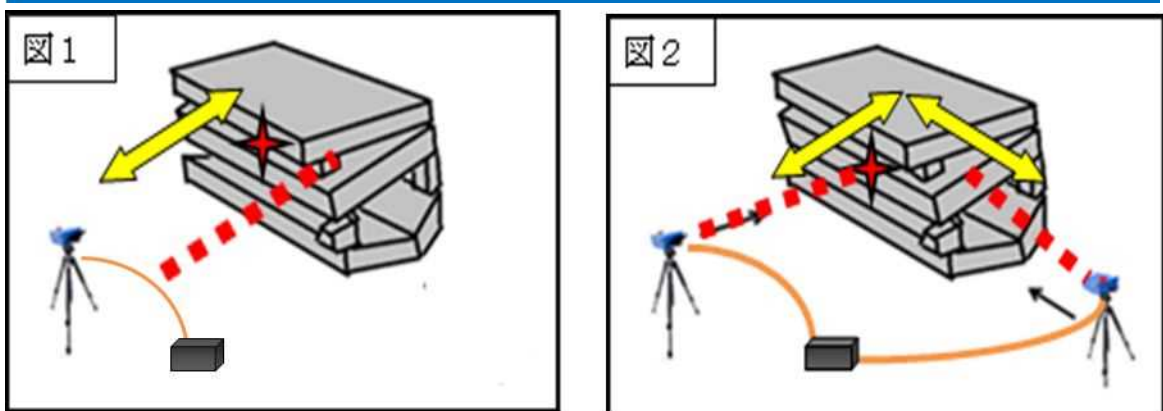
この崩落監視システムは、建物崩落現場及び土砂災害現場において、レーザーセンサーにより不安定な構造物や土砂等のわずかな動きを感知し、音響警報を鳴動させることで、二次災害からの迅速な避難を可能にする機材で本部指揮救助隊が運用します。



◆◆ 現場活動の使用例 ◆◆



◆◆ 1方向監視と2方向監視の特性について ◆◆



- (1) 図1のように1方向からの監視では、監視対象物の前後の動きに対して感知する。
- (2) 図2のように監視レーザーユニットを2台別方向から監視させることにより、監視対象物の前後左右の立体的な動きに対して感知することができる。

◆◆ 使用する際の注意事項 ◆◆

- (1) 太陽光や濃霧等の周囲の環境により、監視感度が低下する場合がある。
- (2) ガラス等の透明な物は、監視できない。
- (3) 雨天で使用する際には、コントロールボックスに防水カバーを設置する。

◆◆ おわりに ◆◆

近年、大型の台風や局所的豪雨、また大規模な地震等により日本各地で土砂災害による被害が発生しています。今回、導入した崩落監視システムで二次災害による危険排除及び活動隊員の安全確保を図り、このような災害に迅速かつ的確に対応していきます。



お問い合わせ先

京都市 消防局消防学校教養課
 電話:075-682-0119
 ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

[北区](#) [上京区](#) [左京区](#) [中京区](#) [東山区](#) [山科区](#) [下京区](#) [南区](#) [右京区](#) [西京区](#) [伏見区](#)

(c) 2013 City of Kyoto. All rights reserved.

閉じる

平成28年11月号 研究課レポート

ページ番号 206773

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

 ツイート

 シェア

2016年10月27日



はじめに

研究課では、昭和54年より火災の発生メカニズムや鑑識の手法等を研究した結果を、「京消研究レポート」としてまとめ、毎年発行しています。生活環境の変化や技術の進歩に伴い出火原因も多様化し、その研究内容も時代により変遷していますが、発行当初から変わることなく、常に研究の題材となっているものに、いわゆる“自然発火”があります。

この自然発火による火災は、常に火災原因の上位を占めている放火やたばこによる火災に比べると、必ずしも発生件数は多いとは言えませんが、火の気がないところから突然燃え出すという自然発火は、正しい知識を持ち、細心の注意を払わなければ、防ぐことが難しい火災です。

自然発火について

自然発火は、物質が常温の空気中において化学変化により自然に発熱し、その反応熱が長時間蓄積されて、ついに発火する現象をいい、原因として、物質の分解熱(セルロイド、硝化綿)、酸化熱(不飽和性油脂、石炭)、吸着熱(活性炭、還元ニッケル)、発酵熱(乾草)、重合熱(酢酸ビニル)などがあります。

また、黄リンなどのように空気に触れると発火するものや、カーバイトのように湿気の下で徐々に、あるいは急激に発熱発火するものも自然発火に含むことがあります。

今回は、自然発火の中でも、過去に数多く研究された酸化熱による自然発火について紹介していきたいと思います。

●過去の自然発火に関する研究一覧(京消研究レポートより抜粋)

- 昭和54年: 魚粉(肥料)の自然発火の可能性について
- 昭和54年: 塗料の自然発火の可能性について
- 昭和54年: 難燃処理加工剤による自然発火の可能性について
- 平成元年: 再生ゴムの自然発火の可能性
- 平成2年: 家畜飼料(魚のあらの加工品)の自然発火の可能性について
- 平成8年: 抜染剤が添加された布地の自然発火について
- 平成9年: 自然発火について
- 平成9年: 米ぬかを乾燥した後の余熱による出火事例
- 平成12年: 天然油脂ワックスの自然発火について
- 平成14年: きな粉や番茶粉の蓄熱出火について
- 平成16年: 薬草の蓄熱発火について
- 平成17年: エステ用オイルの発熱の可能性について
- 平成18年: 不乾性油「オリーブオイル」の発熱の可能性について

酸化熱により自然発火する物質には不飽和脂肪酸が多く含まれており、この不飽和脂肪酸は酸化されやすく、酸化する際に酸化熱が発生します。発生した酸化熱は、放熱が悪い状態で置かれていると、外部へ発散されることなく内部で蓄熱していき、発火温度に至って出火することがあり、出火に至る時間は、数時間から数十時間と条件によって大きく異なります。

過去の研究でも、きな粉、番茶及び薬草からの出火についての研究では、乾燥機内などで一定の温度まで温めて高温となったものを、放熱状態の悪い状態で置いたものが酸化発熱し、一定時間を経過後、発火しています。

また、天ぷらの揚げかすなども多量に置かれた状態では、油が酸化により発熱し発火したり、ワックスや塗料を拭き取った布が発火したりすることもあります。

この不飽和脂肪酸が多く含まれる物質の代表的なものとして、亜麻仁油やオリーブオイルなどが挙げられます。

エステ用オイルの発熱の可能性について

エステサロンで、洗濯乾燥後のタオルが乾燥機内や乾燥機から取り出した後に出火したと考えられる火災が、京都市内で連続して発生したため、エステサロンで使用するオイルが染み込んだタオルの発熱の可能性を研究しました。

まず、洗濯乾燥後のタオルにどれだけオイルが含まれているかを調べる実験を行い、50gのオイルを染込ませたタオル2枚を洗濯し乾燥させた後、オイルの成分を抽出し重量を測定したところ、各々6.2gと8.4gが残留していました。

このことから洗濯後もオイルが残っている可能性があり、乾燥後に高温となったタオルを直ぐに畳んで保管しておく、オイルに含まれる不飽和脂肪酸が酸化し、その際に発生する酸化熱が蓄熱していき、発火温度に達する可能性があるということを検証しました。

天然油脂ワックスの自然発火について

天然油脂を原料とした住宅用床ワックスを使用して、ワックスがけをした際に使った布から出火したと考えられる火災が、京都市内のみならず他都市でも発生したため、ワックスの性質や発火危険について研究しました。

実験方法として、ベニヤ板に塗ったワックスをタオルでふき取ったものを複数用意し、以下のように試料を作成しました。

- (1) ワックスを拭き取ったタオル1枚を丸めたもの
- (2) ワックスを拭き取ったタオル3枚を重ねたもの
- (3) 紙袋に丸めた新聞紙3枚、ティッシュ5枚、ワックスを拭き取ったタオルを丸めて入れる
- (4) ポリ袋に丸めた新聞紙5枚、ティッシュ10枚、ワックスを拭き取ったタオルを丸めて入れる

全ての実験で温度上昇が認められましたが、(4)にあつては、3時間経過した後に確認すると常温に戻っていたため、袋内の酸素を消費したことによって酸化反応が停止したと考えられました。(4)以外のものは、有炎燃焼又は焦げが発生していたことから、天然油脂の染み込んだタオルの発火の可能性があると実証された研究でした。

最後に

最後に、酸化熱による自然発火の可能性のある製品は日常生活の中にも存在します。パッケージに書かれている自然発火についての注意書きをよく読み安全に使用してください。

なお、酸化熱による自然発火を防ぐためには、風通しのよい所に保管し、オイルやワックスが付着したものは、堆積させたり丸めて置いたりせず蓄熱しにくい環境を保つことが大切です。



染料を染み込ませたタオルが焼きしたもの



自然発火の注意書きの例

平成28年
11月号目次

お問い合わせ先

京都市 消防局消防学校教養課

電話:075-682-0119
ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

[北区](#) [上京区](#) [左京区](#) [中京区](#) [東山区](#) [山科区](#) [下京区](#) [南区](#) [右京区](#) [西京区](#) [伏見区](#)

(c) 2013 City of Kyoto. All rights reserved.

閉じる



現在位置: [トップページ](#) [安心・安全情報](#) [Web「京都消防」](#) [Web京都消防平成28年11月号](#)
平成28年11月号 わが社の防火防災自慢

平成28年11月号 わが社の防火防災自慢


ページ番号206762

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

ツイート

シェア


2016年10月27日



わが社の防火防災自慢

平安より今に伝わる歴史と文化を守り続ける

総本山仁和寺 財務部
管財課書記 生石 唯我氏



寺院紹介

仁和寺は、888年に第59代宇多天皇が亡き先帝の遺志を継ぎ開かれた真言宗御室派の総本山です。宇多天皇は897年に出家し、御自ら仁和寺第1世 寛平法皇となり、以後、1000年以上にわたり仁和寺は皇室出身者が住職を務めました。このことより、仁和寺は日本最古の門跡寺院となります。

また、1994年には古都京都の文化財の一つとして「世界文化遺産」に登録されました。

仁和寺と災害の歴史

かつては、門跡寺院として最高の格式を保っていた仁和寺ですが、1467年に始まった応仁の乱により一山の大半を兵火で焼失してしまいました。

幸い、本尊の阿弥陀三尊をはじめ什物や聖教などは、仁和寺の院家であった真光院に移されていたため、平安期から伝わる文化財も今に残されております。

その後、1634年に仁和寺第21世 覚深法親王が幕府に仁和寺再興を申し入れたことから、1646年に伽藍の再建が叶いました。また、境内の裏山には、成就山88箇所が整備されました。

その際、御所から紫宸殿(現国宝金堂)や清涼殿(現重要文化財御影堂)など多くの建造物が下賜されました。現在境内には、観音堂や二王門をはじめ15棟の国宝及び重要文化財建築物が建ち並んでおります。

時は流れ、1887年には御所から賜った御常御殿が火災に見舞われ大半が焼失し、大正時代には再建するものの、近年では過激派の犯行とされている時限発火装置による主要建造物(御影堂、金堂、霊明殿)の火災など、災害が後を絶ちません。

火災以外では、1830年の京都大地震に成就山88箇所の諸堂が倒壊し、院家にも被害が出ました。また、記憶に新しい1995年の阪神・淡路大震災では、重要文化財の飛濤亭の屋根などにも被害がでました。

このように仁和寺は歴史上、幾度となく火災をはじめとした様々な災害の被害に遭い、多くの文化財、建造物、人が犠牲となりました。

しかし、仁和寺は多くの土地と建造物・文化財を様々な災害から防ぎ、未来へ残してゆかねばなりません。

室町や明治に比べると、現在では消防設備・器具は飛躍的に向上充実しており、消防行政による適切な配置、配備により効率のよい消防活動が可能な状態にあります。

よって、仮に過去のような災害に見舞われても今の設備があれば、多くの文化財や歴史的建造物などを火災や災害から守れるでしょう。

しかし、現代の優れた設備や機能を有していても、消火活動に携わり運用するのはあくまで人であり、この一点においては平安から現代に至るまで変わりません。

応仁の乱や明治の大火など、過去の災害に見舞われた際も当時の方々が消火と文化財の搬出に尽力したからこそ、仁和寺は57件にもものぼる国宝・重要文化財を現在に残せているのでしょう。

このことを踏まえ、消防活動に従事する者は設備や機能の充実に頼り切ることなく、その設備や機能を十分に活かせるよう日々の訓練を行い、災害時には適切に判断し対応できる組織を維持して行くことが肝要でしょう。



訓練の様子

消防への取組

仁和寺では、定期的な消防設備点検や日常点検により、設置されている設備を常に正常に維持管理しており、特に自動火災報知設備が作動すると消防指令センターへ自動的に通報される自動火災通報装置を設置しております。

また、仁和寺職員は地域の消防団活動に積極的に参加し、消防署員に協力いただいた消防訓練も行っております。

さらに、訓練の一環として毎年9月に開催される「右京自衛消防隊訓練大会」に毎回参加しております。

本大会には、勤続年数の浅い者から順番に出場隊員を選抜することで、勤続年数に関わらず全職員が消火設備の操法を覚えることを目的としております。

筆者も5年前と今年の自衛消防隊訓練大会に出場しました。5年前は目の前の操法で手一杯になっていましたが、今年は訓練計画を立てる側となったことから、段取りをしてゆく中で訓練自体の精度を上げることも重要ですが、訓練する隊員とよくコミュニケーションをとり連携することや、消防署・消防団の方々などに協力してもらう中で、お互いにより関係を築き信頼を得ておくことなどが、防火防災活動を広く見た際に重要だと感じました。

今年は、消火器操法に2隊、小型動力ポンプ操法に1隊の計3隊が出場し、消火器操法隊のうち1隊が見事、優良賞を取ることができました。

日頃の訓練が存分に発揮された結果であり、非常に喜ばしいことではあります。

しかし、今回の結果に満足するのではなく、職員の防火防災意識を高い水準で維持し、全職員が本山を災害から守れる組織であり続けるよう尽力して行きたいと考えております。



右京自衛消防隊訓練大会での様子

平成28年
11月号目次

お問い合わせ先

京都市 消防局消防学校教養課

電話:075-682-0119

ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

[北区](#)

[上京区](#)

[左京区](#)

[中京区](#)

[東山区](#)

[山科区](#)

[下京区](#)

[南区](#)

[右京区](#)

[西京区](#)

[伏見区](#)

(c) 2013 City of Kyoto. All rights reserved.

閉じる



現在位置: [トップページ](#) [安心・安全情報](#) [Web「京都消防」](#) [Web京都消防平成28年11月号](#)
平成28年11月号 担当区ぐグット紹介

平成28年11月号 担当区ぐグット紹介

ページ番号206763

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます



2016年10月27日

担当区ぐグット紹介
醍醐学区
醍醐消防分署 第一部 醍醐第1消防隊

◆学区の紹介◆

醍醐学区は、京都市の東端に位置し、最東端の陀羅谷地区も含めると面積約10平方キロメートルで、醍醐地域で最も大きい面積を誇り、その学区内には約6,000人の方が住んでいます。

この学区は、なんといってもユネスコ世界文化遺産に登録されている醍醐寺があり、ここにある五重の塔は京都府下最古の建造物です。建立してから約1,300年経ちますが、現存する文化財を見ると、先人達が歴史と文化を護りついできた貴重な土地であることがわかります。

また醍醐寺は「花見の醍醐」と言われるように全国的に桜の花で有名で、これは太閤豊臣秀吉が贅を尽くした花見を、ここ醍醐寺で行ったことが始まりです。このほか、毎年2月23日には醍醐寺の一大行事「五大力さん」があり、五大力餅という巨大な餅を持ち上げる餅上げ奉納が営まれることでも有名です。このような行事のときには、外国人の旅行者も含め、多くの観光客で賑わいます。

仏教では五味相生の譬として、乳を精製(現在でいうバター、もしくは、飲むヨーグルト)する過程の五段階を五味と言い、その精製された五段階の最高の物を醍醐とし、同様に仏より十二部経を出し、最高の経典を大涅槃経としており、これが醍醐味とされました。その後、一般に広まり「本当の面白さ」「真髄」を意味するように使われています。

◆自主防災会の紹介◆

醍醐学区自主防災会は、醍醐学区各町内会で構成された防災委員からなる組織で、山本自主防災会長を中心に4名の役員と共に、醍醐自治町内会連合会をはじめ醍醐消防分団などの各種団体と連携を図り、日頃から積極的な防火防災活動を行っています。

その中でも特に、震災等の大規模災害に備え、毎年6月には自主防災会役員と自主防災部長を中心とした防災研修会(DIG及び防災クロスロード)を開催して防災知識を蓄え、10月には総合防災訓練を実施してその成果を披露します。この訓練の最後には、女性会の方々による総合防災訓練の名物「炊き出し」が参加者全員に振舞われ、学区民の絆を深めるとともに、防火防災意識の高揚に努めています。

◆消防分団の紹介◆

醍醐消防分団は、内海分団長以下28名(うち女性分団員3名)で構成され、昭和23年の消防団発足当初より地域の消防団として活動してきた醍醐地域の中では最も古く歴史のある分団です。

日頃からの小型動力ポンプや資器材の取扱訓練はもちろんのこと、地域の醍醐学区自主防災会主催の総合防災訓練では、率先して防火防災の指導を行い、学区民の防火防災力及び意識の向上に努めています。また、醍醐学区内では花見シーズンや五大力さん等、年間を通じて様々な行事があり、その行事の警備等の活動をすることで、学区民だけでなく、多く訪れる観光客に対しても防火防災の必要性を訴えています。

そのような活動の甲斐があって28年度は、3名(うち女性1名)の方が入団しました。ベテラン団員と経験の浅い団員の力が融合することで、益々の醍醐学区の防火防災力の知識と技術の向上が見込まれます。

◆最後に◆

醍醐学区の礎となる醍醐小学校は、明治5年文部省「学制」公布に伴い宇治郡第一校として開校し、今年で創立144年を迎える醍醐地域で最も歴史のある学校です。昭和30年代末から醍醐地域全体の人口増加に連れ、他の小学校が開校して、それに伴い各学区に分かれ、現在では醍醐地域全体で10校区になるほど発展しました。

このことから醍醐10校区の原点は、醍醐学区が出发点であると言っても過言ではありません。他の学区の手本となり、醍醐の歴史と文化を護り継いでいくため、自主防災会、消防団、消防分署が今後とも学区民の防火防災の意識と技術の向上のため、一丸となって取り組んでいく次第です。



平成28年
11月号目次

お問い合わせ先

京都市 消防局消防学校教養課
電話:075-682-0119
ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

[北区](#) [上京区](#) [左京区](#) [中京区](#) [東山区](#) [山科区](#) [下京区](#) [南区](#) [右京区](#) [西京区](#) [伏見区](#)

(c) 2013 City of Kyoto. All rights reserved.

閉じる

平成28年11月号 ザ☆消防

ページ番号206764

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

 ツイート シェア

2016年10月27日



左京消防署 岩船 寛大

はじめに

みなさんは「守・破・離」という言葉を耳にしたことがありますでしょうか？

ビジネス本やインターネット等でもよく引用されていますので、ご存じの方も多いとは思いますが、日本における師弟関係の一形態を示す言葉で、簡単に説明すると以下のような感じです。

守 師匠に言われたこと(型)を「守る」

破 言われたことを自分なりに解釈して(型)を「破る」

離 師匠の(型)から「離れ」自分の(型)を創る

守

わたしが消防士として勤務し出してから14年になりますが、その間、こちらから勝手に師と仰がせてもらっている方が何人かおられます。

「守・破・離」になぞらえて、その方々に言われたことは「守」ってきているつもりですが、なかなか、次の段階である「破」に到達できていないのが現状です。

ある方からは、災害現場活動において、そのとき選択している活動方針が行き詰まった際でも臨機応変に対応できるよう、常に「二の手、三の手」を考えておくと教えていただきました。

言うは易し、行うは難しで、現場活動においてこの教えを守ろうとしても、「一の手」すら決まらないときがあります。

例えば、最近、毎日のように発生している「玄関施錠の屋内急病」事案で、内部確認をする際の破壊の判断などは何回出動しても迷います。建物内に人がいるのは確実に緊急性があると判断し、ベランダの窓を小破壊して屋内進入したところ、高齢女性がベッドで寝ているだけだった...のような事案は、皆さんも経験しているかと思います。

そこで、どんな状況でも適切な一手を導き出せるように、災害現場だけでなく、日常生活や趣味に講じているときでも「二の手、三の手」を考えて行動するよう努力しているのですが、なかなか思いどおりにはいきません。

破

「守・破・離」の「守」の部分で、師匠の教えを守り続けようにも、教える側の人間と教えられる側の人間は、育った環境や時代が異なる人間ですので、完璧にコピーすることは不可能です。故に、教えられたことの本意を外れないように自分流にアレンジすることが必要ではないかと思えます。

京都消防では近年の災害の発生状況や社会の変化に伴う警防態勢の見直しにより、水槽車の活用やそれによる部隊の車両の入れ替えを行ったり、救急需要の増加に対応するため救急隊のみの出張所が開設されるようになりました。

それでは、われわれ職員自身のスキルについてはどうでしょうか。

消防活動総合センターにおいて、より現場に近い形での訓練が可能になってはいるものの、先輩たちが経験してきたような災害現場自体が減少傾向にあり、現場活動における経験値の低下は否めません。このような現状を「守・破・離」に置き換えてみると、多くの現場を経験してきた先輩の(型)を破るには到底至っていないと思えます。

しかし、炎上火災が多く発生していた時代を経験してきた先輩そのものになることもできません。必要なのは、今の京都消防を取り巻く環境に適したプロになることだと思います。

離

先人の教えを守ったうえで、出てくる反省点を次の現場への「引き出し」に変化させ、その「引き出し」をどんどん増やしていくことで、難しい判断が迫られる現場でも、「二の手、三の手」を導き出せるプロ、つまりは自分の(型)を創ることにつながるのではないかと思います。

おわりに

文章では、立派なことを簡単に書けるのですが、これを実践するとなると非常に難しいのが現状です。まだまだ、道半ばではありますが、わたしの「守・破・離」のレベルを上げていくことで、自分の(型)を一日でも早く見つけられるよう精進し、接した後輩たちに何か一つでも伝えられるような存在になりたいと思います。



平成28年10月
いずれも中央が筆者

平成28年
11月号目次

お問い合わせ先

京都市 消防局消防学校教養課
電話:075-682-0119
ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

[北区](#) [上京区](#) [左京区](#) [中京区](#) [東山区](#) [山科区](#) [下京区](#) [南区](#) [右京区](#) [西京区](#) [伏見区](#)

(c) 2013 City of Kyoto. All rights reserved.

閉じる

平成28年11月号 あの日あの頃

ページ番号206770

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

 ツイート シェア

2016年10月27日

あの日あの頃

救助活動ノートから

山科消防署 司馬田 宏



はじめに

早いもので私の消防人生もあと1年半となりました。今までは尊敬する上司の方や先輩たちを見送っていましたが、いつの間にか私もそんな年齢に近付きつつあります。先日、過去の災害現場活動の資料を整理していたら、懐かしいノートが出てきましたのでいくつか事例を紹介します。

急流救助

今から30年近く前の私が救助隊員となり3年目の夏のことです。U区の川の中州でキャンプをしていた家族が、夕方から物凄い豪雨で川が増水し、中州に取り残されたとの通報で出動しました。

現場は、山奥の溪流で、日も暮れてようやく到着するとゴーっという地響きを立て流れる川の向こうに、水没した中州で助けを求める家族の姿が見えました。

辺りは暗く投光器で照らすと、もやがかかって、蒸し暑くて異様な雰囲気でした。

今なら、「急流救助」の活動要領がありますが、当時はそんなものはありません。救命索発射銃を使いたかったのですが、立木が邪魔になって断念し、結局、隊長が激流を泳いで渡り、ロープを展張し、救助ボートで往復して家族を全員無事に救出しました。

最初に川を渡った隊長は、斜めに横断したにも関わらず、20m以上も流され、2番目に川を渡った私は、川底を音をたてて流れる岩石の音に恐怖を感じました。

その後の疲労感は相当なもので、今から思えばよく無事に救出できたものだと思います。

年末の火災救助

消防士長に昇任して救助隊の副隊長になって2年目の年末に、S区で深夜に民家火災が発生しました。先着の消防隊に続き現場到着すると二階から炎と黒煙が噴出していました。

聞き込みのため先行した私は、正面から二階へ2つ折りはしごを架けて登りかけている消防隊長を見つけました。すぐに声を掛け「大丈夫ですか、そこから中へ入るのですか。」、するとその隊長は「誰がいる。」と言って窓の中へ上半身を乗り出し、内部を確認しました。

私は、救助隊長に直ぐに「802発見」と報告し、救出活動に加わりました。はしごを登り、二人で何とか窓枠に引き上げて、私が抱えて降ろそうとしたところに後着の隊員が来てくれたので、地上へ救出することができました。

最初の男性を救出した際に、何かに触れた感じがあったので、もう一度内部確認するともう一人男性が倒れていました。「あと一人いるぞ。」と叫び、消防隊長に代わって上へ上がってきたもう一人の副隊長と二人で持ち上げようとしたのですが、要救助者は重くて、パジャマ姿だったので服が掴みにくく苦勞しましたが、何とか窓の外へ出したところ、当時の大隊長(今の指揮隊長)が人混みの中から走り出てきて「俺に任せろ。」と数名の隊員たちと要救助者を受け取ってくれました。活動後、チタン製の2つ折りはしごを確認すると曲がっていました。

強烈な熱気と激しい黒煙の中で救出した2名の男性は、ともに90キロを超える体格であったそうです。残念ながら二人目の要救助者であった息子さんは亡くなられたそうです。

就寝中に火災に気付き、窓際まで逃げて窓に手が掛かったところで、濃煙熱気に巻きこまれてしまったのでしょう。先着の消防隊長は、冬なのに窓が少し開いていることに気が付き、不審に思い、はしごを架けて中を確認したところ要救助者を発見したとのことで、わずかな変化を見逃さない優れた方でした。

耕運機に巻き込まれた男性の救出

救助隊長となつてからのことです。F区の畑内で高齢男性が小型の耕運機に巻き込まれた事故がありました。現場に到着した我々を待っていたのは、想像を絶する状況でした。

畑内で高齢男性があぐらをかくような感じで座っており、その上に耕運機が上下反対で覆い被さっていました。そして、耕運機の鎌状の刃が右胸部に根本近くまで刺さっていました。

さらに、大腿部にも貫通する刃が2本もあり、上半身と下半身が刃のため右方向へ捻じれた状態でした。それでも要救助者の意識は、ほぼ清明で、「痛い。」と苦痛を訴えておられました。

どこから手をつけるべきか、どうすればいいのか。必死で部下たちと要救助者の状態を観察し、活動方針を決定しました。

まず、安全管理として、耕運機のエンジンを停止させ、素手でエンジンと地面を触れてアースを行い静電気を除去、消火器と近くにあった水道ホースで消火準備をしました。

そして、救助方法を順位決定です。

まず、要救助者に刺さっている3本の刃のうち、致命傷になりかねない胸部に刺さっている刃を切断し、上半身を解放する。

切断する際に、振動を抑えるためにセーバーソーを使用する。

最後に、残りの刺さっている2本の刃については、要救助者と耕運機の刃の取付け部に分解工具が入らないため、回転軸そのものを本体から取り外し、刃がそのまま刺さった状態で病院へ搬送するよう判断しました。

矢継ぎ早に活動順位の決定をし、救助活動に着手しました。

胸部に刺さった刃の切断には、潤滑油を切断面に塗布し、また身体に刺さった刃を両手でしっかり保持し、セーバーソーの振動が要救助者に伝わらないように配慮し、胸部の刃を切断、その後大腿部に刺さっている残りの2本の刃が取り付けられている回転軸を取り外し、要救助者は病院へ搬送されました。

その後、要救助者は搬送された病院で、7時間に及ぶ大手術の末に無事に回復され、29日後にご自分で歩いて退院されたとのことです。

最後に

今までに数多くの災害現場に出動してきました。幸いなことに軽い打撲や擦り傷はあったものの負傷せずに、また隊員たちも負傷することなくやってこれました。これはみんなの高い意識のお蔭であると感謝しています。

そんな中で、災害現場活動において最も重要なものは「情報」であると考えています。「情報」と言っても大きく分けて五感で感じることで、聞き込みによって教えてもらうことがあり、それらをふるいにかけて自分で判断すること。これが肝心なのではないかと考えています。

消防の業務も阪神・淡路大震災と地下鉄サリン事件で大きく変わりました。これからも変わっていくでしょう、しかし、「客観的な事実に基づく合理的な判断」という概念は、これからも変わることがないのではと考えています。

ありがとうございました。



平成14年頃
南消防署吉祥院出張所にて（南部救助隊長）
▲右端が筆者



平成8年頃
中部救助隊長当時
▲右端が筆者

お問い合わせ先

京都市 消防局消防学校教養課

電話:075-682-0119

ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

[北区](#) [上京区](#) [左京区](#) [中京区](#) [東山区](#) [山科区](#) [下京区](#) [南区](#) [右京区](#) [西京区](#) [伏見区](#)

(c) 2013 City of Kyoto. All rights reserved.

閉じる